

2018年度

就実大学大学院

人文科学研究科

人文科学専攻

修士課程

学生募集要項

就実大学大学院 人文科学研究科 人文科学専攻

入学試験要項

■ 募集人員（男女）（募集人員は秋期入試・春期入試の合計）

研究科名	専攻名	課程	募集人員
人文科学研究科	人文科学専攻	修士課程	10名

■ 試験日程 <秋期入試>

願書受付期間	試験日	合格発表日	入学手続期限	
2017年 9月1日（金）～9月12日（火） <消印有効>	2017年 9月22日（金）	2017年 10月3日（火）	一 次	2017年 10月20日（金）※入学金の納入のみ
			二 次	2018年 1月12日（金）<消印有効>

<春期入試>

願書受付期間	試験日	合格発表日	入学手続期限	
2018年 2月9日（金）～2月19日（月） <消印有効>	2018年 2月27日（火）	2018年 3月3日（土）	一 括	2018年 3月13日（火）<消印有効>

目次

人文科学研究科の概要	p. 1
選任教員の紹介	p. 3
入学試験要項	p.11
各選抜共通事項	p.18

人文科学研究科 人文科学専攻

概 要

【人材育成の目標】

専攻分野における専門的知識・技能の伝授と研究力鍛錬によって修士論文を完成させ、当該分野の専門研究に参加できる人材の養成を、教育の核とする。併せて専門性を支える教養や実社会で求められる実践的能力を修得させ、現代社会の諸問題に主体的に対応できる人材を育成することも、主要目標とする。

【ディプロマ・ポリシー（修了認定及び学位授与の方針）】

所定の単位を修得し修士論文を完成させるなかで、人文科学分野全体を見渡す広い視野と自らの研究課題を見つけ出す鋭敏な問題意識、そして課題に粘り強く取り組んで解明を目指す探求力を備え、かつ下記の諸能力を身に着けたと認められる学生に、修士（人文科学）の学位を授与する。

1. 研究に関わる情報を十分に収集し、適切に整理する能力
2. 収集・整理した情報を分析して、問題の所在を把握する能力
3. 多方面から、主体的かつ柔軟に問題解決を試みる能力
4. 自らの問題関心や研究成果を、適切に外部に発信できる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）】

学位授与のために要求される多様な条件を満たすため、下記の2分野からなる教育課程を編成する。

1. 言語・文化・歴史探求分野
2. 表現・実践・歴史活用分野

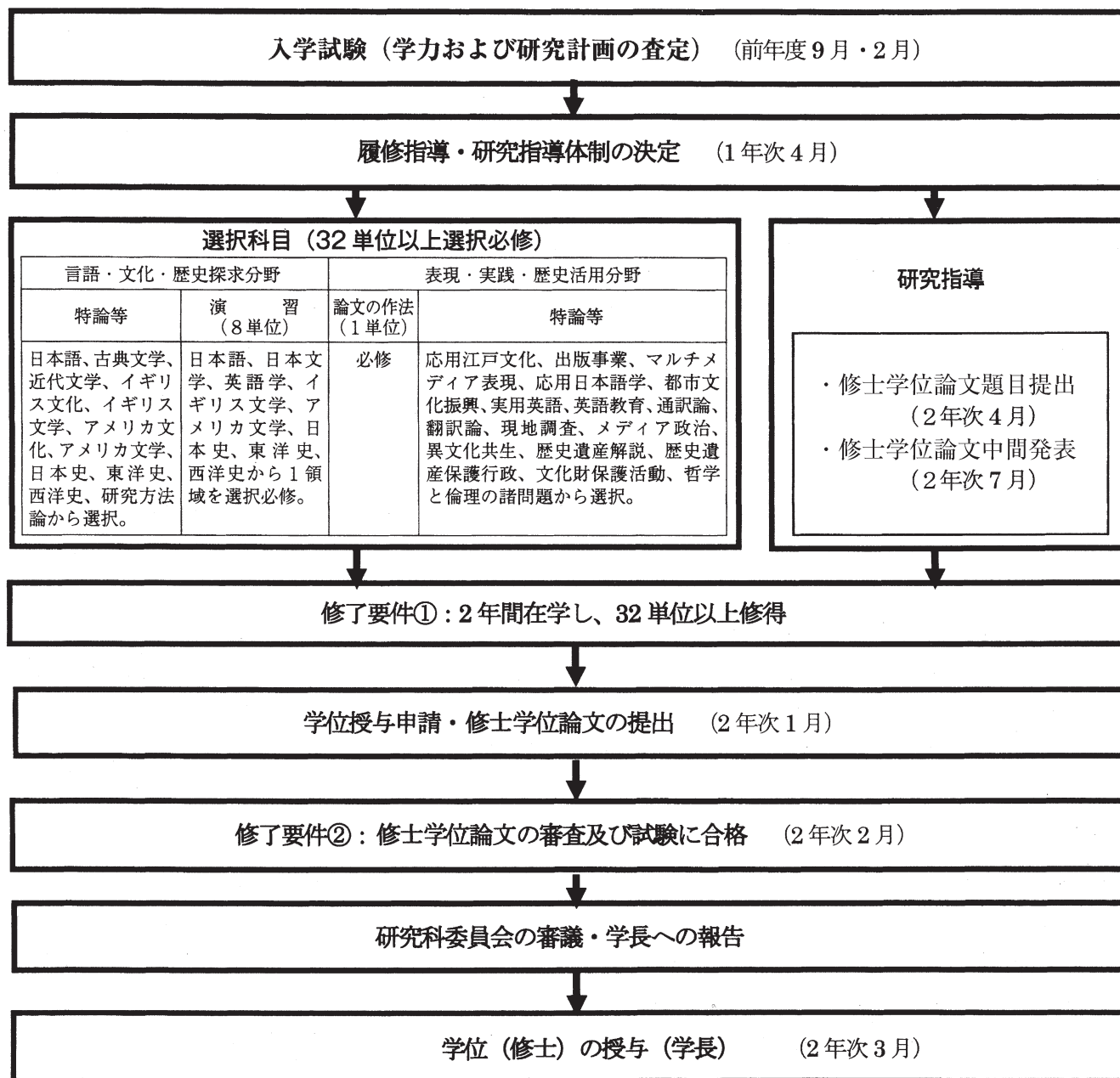
このうち1は、修士論文作成指導を主目的とした専門的研究分野における教育課程であり、2は、修士論文のテーマに限らず、人文科学を中心として広い学問領域を見渡す視野を得るための教育課程である。

【アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）】

「カリキュラム・ポリシー」に則って十分有効な教育を行い、「ディプロマ・ポリシー」に適う人材を養成するため、入学学生には下記の条項を満たすことを求める。

1. 日本語・日本文学・英語・英米文学・歴史学いずれかの専門領域において、自ら研究テーマを設定できる
2. 研究を予定しているテーマの資料処理に必要な基礎的言語能力（古文・漢文・英語ほか各国言語読解能力）を備えている
3. 研究を予定しているテーマ及び関連領域について、学士課程修了相当以上の十分な知識・技能を有している
4. 自らの研究テーマについて、口頭及び文章で明確な説明ができる

学位取得までの流れ



大学院人文科学研究科への進学のおすすめ

大学院人文科学研究科人文科学専攻では、個別指導で興味ある専門領域での研究を深めていきます。

- 人文科学の理論と実践力をさらに磨きたい。
- 人文科学の研究者を目指したい。
- 大学院で実力をつけて教員採用試験にチャレンジしたい。
- 専修免許状を取得し、理論と実践に強い教員を目指したい。
- 大学院で学びながら学部の資格も取得したい。
- もっと学びたい、もっと自分を高めたい。

…………… そのような目的意識と勉学意欲のある人にふさわしい修士課程です。

専任教員の紹介

日本語学

中崎 崇 博士 (言語文化学) / 日本語学

研究領域・主要テーマ

現代日本語の記述的研究。主に終助詞についての記述的研究と語用論の枠組みを用いた機能研究を中心として行っている。

2017年度の授業内容

日本語特論Ⅲ・Ⅳ

基本的に学生の興味のある現代日本語に関するトピックを扱い、関連論文の講読、批評を行っていく。

主要著書・論文

「終助詞「ヨ」の機能に関する一考察」(『語用論研究』第7号, 2005), 「命令・意志を表す名詞文についての覚書」(共著, 『京都橋大学研究紀要』第38号, 2012), 「一人称主格をとる命令文に関する一考察」(『表現研究』第95号, 2012)

岩田 美穂 博士 (文学) / 日本語学

研究領域・主要テーマ

日本語史, 中でも文法史の研究。特に, 複文形式の歴史の変遷, 文法化などを中心とする。他に歴史研究と関連する方言なども研究対象としている。

2017年度の授業内容

日本語特論Ⅰ・Ⅱ

日本語文法史の中から, 主要なテーマをトピックとして取り上げ, 概要や研究史, 問題点などを討議していく。

主要著書・論文

「ノ・ダノ」並列の変遷—例示並列形式としての位置づけについて」(『語文』第89輯, 2007) 「ヤラにおける例示用法の成立」(共著, 『日本語文法』11巻2号, 2011) 「引用句派生の例示」(『日本語文法史研究』1巻, 2012), 「例示並列形式としてのトカの史的変遷」(益岡隆志他編『日本語複文構文の研究』, ひつじ書房, 2014)

古典文学

岡部 由文 修士 (文学) / 古代文学

2018年3月退職予定 (新教員補充予定)

研究領域・主要テーマ

古代の物語文学と和歌文学の研究。特に両者の融合形態である歌物語について成立論と作品機能論を視点とする研究に取り組んでいる。

2017年度の授業内容

古典文学特論Ⅰ

平安期に規範化された日本的心性と美意識のありようについての認識を深めることを目標とし, 具体的事例として源氏物語「橋姫」巻を対象に注釈史を踏まえた解説を進める。

古典文学特論Ⅱ

平安期に規範化された日本的心性と美意識のありようについての認識を深めることを目標とし, 具体的事例として日本の美意識の典型的規範を示している古今集の解説と分析を進める。

主要著書・論文

『歌語り・歌物語事典』(共著, 勉誠社, 1995), 『伊勢物語の表現史』(共著, 笠間書院, 2004), 「大和物語における源宗于の位置」(『中古文学』第20号, 1977), 「伊勢物語終焉段とみやび」(『就実語文』第11号, 1990), 「歌語りの和歌史的機能」(『就実語文』第15号, 1994)

川崎 剛志 修士 (文学) / 中世文学

研究領域・主要テーマ

鎌倉・室町時代の寺社縁起研究。文献学の立場から, 主に熊野・大峯の縁起, および修験道書に取り組んでいる。

2017年度の授業内容

古典文学 (中世) 特論Ⅲ・Ⅳ

文献調査の基本技能を身につけるために, 中世文学の書物の形態と内容を学ぶ。

日本文学演習 A・B・C・D

読解のために必要な資料を探りながら, 古典文学作品に注釈をつけていく。

主要著書・論文

「当麻寺流記」の発見」(『中世文学』第59号, 2014), 『修験道の室町文化』(編著, 岩田書院, 2011) 真福寺善本叢刊『中世唱導資料集Ⅱ』(共著, 臨川書店, 2008), The Invention and Reception of the Mino'odera engi (Japanese Journal of Religious Studies 42-1, 2015)

井上 啓治 博士(文学) / 近世文学
2018年3月退職予定(新教員補充予定)

研究領域・主要テーマ

近世中期・後期の小説研究および、近世を中心とした美術系文化の研究。中国小説と近世小説の関係、あるいは江戸の作家における考証学と実作品の関係など。

2017年度の授業内容

応用江戸文化論

江戸前期の中国翻案系小説と中期の『雨月物語』などを、原拠の中国小説と比較読解し、雨月の文学性、ことに人間認識の深さに迫りたい。

日本文学演習A・B

八犬伝における〈公-私〉、〈他者-私〉の葛藤を

描く近代性やその人物像を通して馬琴の理想を
探求する。

主要著書・論文

『京伝考証学と読本の研究』(新典社, 1997), 「馬琴への対抗と黙阿弥への影響」(『近世文芸』第46号, 1987), 「八犬伝と孝経・論語と史記」(『復興する八犬伝』勉誠出版, 2008), 「八犬伝第一部, 刺客・軍師・聖賢」(『就実表現文化』第1号, 通巻27号, 2007), 「八犬伝第一部, 〈伏姫伝奇〉論」(『就実表現文化』第4号, 通巻30号, 2008), 「八犬伝〈親兵衛第二物語〉へ水滸・楊志像と親兵衛像」(『近世文芸 研究と評論』第78号, 2010), 「八犬伝第三部 毛野の成長と完成」(『就実論叢』第38号, 2009)

近代文学

松尾 直昭 修士(文学) / 日本文学

研究領域・主要テーマ

日本近代文学の研究。明治期以降の文学の主要問題を、夏目漱石を中心に追求している。特に、彼の精神的問題の特殊性を禅仏教の救済機能と関連付けて理解を試みている。

2017年度の授業内容

近代文学特論Ⅰ・Ⅱ

漱石文学の基本的問題の理解を図る。漱石の精神史、明治時代の特徴がどのような視点や方法論と結びついて、「作家」・「作品」の説明を構成しているか。この問題の理解を図る。

日本文学演習A・B・C・D

作家夏目漱石と作品の基本的問題を正確に理解した上で、「夢十夜」の作品の特殊性を分析している。この作業の過程で、作品研究の「対象」と「方法」の問題をも理解できるよう図っている。

主要著書・論文

「夏目漱石『自意識の罫』—後期作品の世界」(和泉書院, 2008), 「夏目漱石『夢十夜』『第三夜』論への前提(上)」(『就実語文』第21号, 2000), 「夏目漱石『夢十夜』『第三夜』論への前提(下)」(『就実論叢』第30号, 2000)

松本 潤一郎 修士(文学) / フランス文学

研究領域・主要テーマ

世界資本主義下における芸術・文化・思想・哲学・理論の動向(主に欧米圏と日本語圏)

2017年度の授業内容

出版事業特論Ⅰ・Ⅱ

資本主義下の文化を政治・社会・経済動向との連関において考察する視座を獲得する。グローバルゼーション(普遍主義)とナショナリズム(個別主義)のいずれにも安易に加担せず、両者を冷静に分析・横断しつつ、第三の道を構想・提起するための理論的準備である。

主要著書・論文

『ドゥルーズ—生成変化のサブマリン』(共著, 白水

社, 2005) 「過去への前進という未来への逆進—労働賃金と所有の批判哲学」(単著, 『立教大学ランゲージセンター紀要』第35号, 2016), 「矛盾は失効したのか—思考の政治的時効」(『現代思想と政治』, 平凡社, 2016), 「また消えるために—思考のイメージについて」(『ドゥルーズ・知覚・イメージ』, セリカ書房, 2015), 「上向と翻訳—言葉の身体化」(単著, 『立教大学ランゲージセンター紀要』第33号, 2015), 「ピエール・クロソフスキーにおける身体と交換—『歓待の掟』を中心として」(単著, 『北海道大学大学院文学研究科映像・表現文化論講座紀要 層—映像と表現』第7号, ゆまに書房, 2014), 「クロソフスキー—思考の名前」(『ドゥルーズ—千の文学』, セリカ書房, 2011), 「公理と指令」(『ドゥルーズ／ガタリの現在』, 平凡社, 2008)

小林 敦子 博士(文学) / 表現創造・日本文学

研究領域・主要テーマ

日本近代文学を中心に以下のテーマを探求している。

- ・文学における直接経験の論理
- ・知識人としての大正・昭和期の文学者の思想
- ・散文創作を中心とした表現教育の手法

2017年度の授業内容

近代文学特論Ⅲ・Ⅳ

「私ならざるもの」に「なる」といった主張を、多くの芸術家、多くの文学者が表明している。文学において、何ものかに「なる」とは、どの

ようなことを意味しているか。自他の関係性を問う古今の哲学を参照しつつ、日本近代文学の作家を中心に、この問題への思考を深める。

主要著書・論文

『生としての文学—高見順論—』(笠間書院, 2010), 「子どもになる」こと—北原白秋「童心」試論」(『就実表現文化』第7号, 2010), 「蛙への生成変化—草野心平とドゥルーズ—」(『人文学の正午』第4号, 2013), 「『過去を書く』こと—室生犀星『王朝』と折口信夫『王朝語』」(『就実表現文化』第6号, 2011), 「『不安』の時代のリアリズム—高見順と1930年代思潮—」(『二十世紀研究』第7号, 2006)

表現関連領域

岡本 悦子 修士（文学）／舞踊教育学

研究領域・主要テーマ

舞踊教育における即興表現の可能性

2017年度の授業内容

都市文化振興特論Ⅰ・Ⅱ

文化と社会の関わりについて、「共感」や「社会参加」の観点から考察していく。

主要著書・論文

「マイ・スポーツ」（ダンス分野担当執筆、大修館書店）、
「舞踊学講義」（第8章を担当執筆、大修館書店、1999）他、
第60回国民体育大会・第5回全国障害者スポーツ
大会開会式典演技構成振付指導（2005）、第25回
国民文化祭倉敷市実行委員会洋舞フェスティバル
企画委員会委員、洋舞フェスティバル岡山県現代
舞踊連盟作品「COCOON」制作統括（2010）

中西 裕 修士（文学）／教育学・人文社会情報学

研究領域・主要テーマ

教育におけるネットワーク利用、メディア表現教育、
教育と著作権の諸問題など。

2017年度の授業内容

マルチメディア表現特論

専門知識を有する人は同時に社会への情報発信の義務を負う。
コンピュータとネットワークを利用したマルチメディア表現を自立して
なし得る知識と技能を習得し、あわせて情報社会にお

ける表現行為をめぐる諸問題について他を指導し得る実務的な知見を持つことを目的とする。
ビデオ教材、アニメーション等、マルチメディア小作品の実作と公開を通じて実務的な知見を獲得する。

主要著書・論文

『考える情報学』（編著、樹村房、2012）、
「大学授業のための携帯端末を利用したレスポンスアナライザの
開発」（『就実論叢』第38号、2009）、
「Web表現教育と著作権」（『就実表現文化』第1号、2006）

英 語 学

小田 希望 博士（文学）／英語学

研究領域・主要テーマ

呼びかけ語が対人コミュニケーションにおいて、
どのような語用論的働きを持つかをポライトネスの観点から研究に
取り組んでいる。また、語の多義性についても、認知言語学の立場から
考察を行っている。

2017年度の授業内容

通訳論とその演習Ⅰ・Ⅱ

通訳の本質・意義についての理解を深めた上で、
実際通訳をする際に、どのような再解釈課程を経て、日本語から英語
（または英語から日本語）にするのか。通訳に必要な能力を身につける
ことを目指す。

主要著書・論文

『解いて学ぶ認知言語学の基礎』（共著、大修館書店、2017）、
『プログレッシブ英和中辞典』（共著、校閲・執筆担当、編集主幹 瀬戸賢一・投野由紀夫、小学館、2012）、
『英語の呼びかけ語』（大阪教育図書、2010）、
『英語多義ネットワーク辞典』（共著、瀬戸賢一編、小学館、2007）、
『ことばは味を超える』（共著、瀬戸賢一編、海鳴社、2003）

西谷 工平 博士（文学）／英語学

研究領域・主要テーマ

ことばの使用法を分析することでその使用者が有する概念構造を明らかにする研究。
認知言語学の領域では言語的アイロニーの概念構造についての研究、
第二言語習得論の領域では外国語のエラー生成のメカニズムについての研究
を行っている。

2017年度の授業内容

実用英語特論Ⅰ・Ⅱ

英語学（とくに認知言語学）に関連する先行研究を概観することで、
英語学の主要なトピックを把握する。同時に、英語で書かれた論文・
文献・資料の内容を精密に解析し、批判的に検討する能力を鍛え上げる。

主要著書・論文

「L1多義指導はL2誤出力予防につながるのか？—多義指導の有効性についての予備調査—」（共著、
『JACET-CSCRB』vol.12、2015）、
「日本語の用法区分に起因する英語の誤出力—「できた」と“I can”の誤出力—
過剰拡張のタイプと教育的示唆—」（共著、
『JACET-CSCRB』vol.11、2014）、
『プログレッシブ英和中辞典第5版』（瀬戸賢一・投野由紀夫編著、分担執筆・校
閲担当、小学館、2012）

イギリス文学

渡辺 浩 修士 (文学) / イギリス文学

研究領域・主要テーマ

19世紀, 20世紀のイギリス小説研究。主にジョセフ・コンラッドとジョージ・オーウェルの研究を中心に, 文化・政治等の背景を考慮に入れながら作家・作品論を考察。また第二次世界大戦後のポストコロニアリズムの解釈を研究中。

2017年度の授業内容

イギリス文学特論Ⅰ・Ⅱ

20世紀は政治的に激動の時代であった。その

背景の中で, 文学思潮の移り変わりも激しい状況にあった。そうした意味で第二次世界大戦を挟んでオーウェルの文学的視点の変化と, コンラッドの「闇の奥」(‘Heart of Darkness’, 1899)の解釈の変遷を考察する予定である。

主要著書・論文

『オーウェル—20世紀を超えて』(日本オーウェル協会設立25周年記念論文集) (共著, 音羽書房鶴見書店, 2002), *Orwell: A Centenary Tribute from Japan* (オーウェル生誕百周年記念論文集) (共著, 彩流社, 2003)

アメリカ文学

和栗 了 博士 (文学) / アメリカ文学

研究領域・主要テーマ

Mark Twainの作品と人物の研究。作品研究に関しては家族という視点から, 作家研究に関しては彼の書簡集と自伝から, それぞれ研究している。

2017年度の授業内容

アメリカ文学演習 A・B・C・D

アメリカ合衆国を代表する小説家 Mark Twainの代表作 *Adventures of Huckleberry Finn* の理解を通して, アメリカ文化の深層を探る。アメリカの何か一つのことについて自分は理解できると主張できるようになることが目的である。

イギリス文学演習 A・B・C・D

William Shakespeareの作品を最低半期に一作

品を読んで, 問題点を指摘し, どのように解釈できるかを受講生と討論する。Shakespeareに関する知識が無くても十分議論に参加できるように指導する。最終的には, 各受講生自身のShakespeare観を持てるようになることが目的である。

主要著書・論文

Mark Twain and Strangers (英宝社, 2004), 『貧乏貴族と金持貴族』(翻訳, 共同訳, 刀水書房, 2005), 『異文化との出会い』(論文集) (編著, 大阪教育図書, 2008), 『若きマーク・トウェイン: “生の声” から再考』(論文集) (編著, 大阪教育図書, 2008), 『マーク・トウェイン書簡集』第一巻 (翻訳, 大阪教育図書, 2011), 『マーク・トウェイン自伝』(翻訳, 柏書房, 2013)

長瀬 恵美 修士 (文学) / アメリカ文学

研究領域・主要テーマ

F. S. フィッツジェラルドの文学の文体的特徴についての研究を行っている。また, フィッツジェラルドと同世代であるロストジェネレーションの時代の作家の時代的特徴の研究も行っている。

2017年度の授業内容

アメリカ文学特論Ⅰ・Ⅱ

1920年代アメリカの繁栄と享乐的風潮が内包する危険な華やかさと, その底流に漂う幻滅感を, 当時の様子を描いた評論と短編から読み取り, その時代の歴史的文化的意味を読み解く。

主要著書・論文

「『グレート・ギャツビー』の音韻とリズム」(『就実英学論集』第30号, 2014), 「『グレート・ギャツビー』の言語—音韻構造を中心として」(『就実英学論集』第29号, 2013), 「『グレート・ギャツビー』の言語とスタイル」(単著, 大阪教育図書, 2012), 「『グレート・ギャツビー』における比喻表現」(『就実英学論集』第27号, 2010)

アメリカ文化

ローレンス・ダンテ 修士 (教育学) /
バイリンガル教育

研究領域・主要テーマ (Field of Research)

My main field of research is bilingual education in the United States. In particular, I often research sociolinguistic and cultural factors that influence bilingual education.

2017 年度の授業内容

アメリカ文化特論 I・II

The debate concerning bilingual education

in the United States will be studied from historical, political and cultural viewpoints, with special regard for different visions of American society and identity.

主要著書・論文

Bilingual Education in the United States, (御手洗博, 押谷善一郎, 中野道雄編『英語世界へのアプローチ』, 大阪教育図書, 2003), *Language and Identity: Concerns about Isolation*, (就実英学論集』第30号, 2013)

日本史

曽根 正人 修士 (文学) / 日本仏教思想史

研究領域・主要テーマ

南都及び天台宗を中心にした日本古代～中世初期の仏教界の思想史研究。現在は戒律思想と教義を核として研究を進める。また『成唯識論』及びその註釈『成唯識論記述』の読解研究を進行中。

2017 年度の授業内容

日本史演習 A

学生の修士論文の問題関心に沿ったテキストを講読する。

日本史演習 B

学生の修士論文完成を目的に、学生の執筆草稿に対して、先行研究に対するスタンスや史料の読解、論理の組み立て等について、具体的かつ継続的指導を行う。

日本史特論 I・II (古代)

平安時代の同時期に古記録等が複数現存する時期の諸史料をテキストとして、一つの事件について、各史料の筆者によって理解や認識がどのように異なって現れるかを照射する。

主要著書・論文

『古代仏教界と王朝社会』(吉川弘文館, 2000), 『聖徳太子と飛鳥仏教』(吉川弘文館, 2007), 『日本史リブレット人: 空海』(山川出版社, 2012), 『神々と奈良仏教』(論文奈良仏教第4巻)(編著, 雄山閣, 1995), 『栄花物語の新研究』(共著, 新典社, 2007), 『新アジア仏教史 11: 日本仏教の礎』(共著, 佼成出版社, 2010), 『日本書紀の謎と聖徳太子』(共著, 平凡社, 2011), 『新体系日本史 15: 宗教社会史』(共著, 山河出版社, 2012), 『岩波講座 日本歴史 古代 5』(共著, 岩波書店, 2015)

苅米 一志 博士 (文学) / 中世宗教社会史

研究領域・主要テーマ

中世の地域社会における寺社と民衆との関わりについて、特に荘園という領域に注目し、文献・考古・民俗などの資料を用いて考察している。

2017 年度の授業内容

現地調査特論 I・II

中世荘園を素材とした現地調査について、地理学・考古学・民俗学・文献史学の諸方面から考察・実践する。

主要著書・論文

『荘園社会における宗教構造』(校倉書房, 2004), 『中世仏教の展開とその基盤』(共著, 大蔵出版, 2002), 『動物と中世』(共著, 高志書院, 2009), 「荘鎮守における組織と祭祀」(『民衆史研究』第68号, 2004), 「中世前期における地域社会と宗教秩序」(『歴史学研究』第820号, 2006), 「中世初期の国衙と寺院」(『就実大学史学論集』第22号, 2007), 「中世初期における備前国衙と天台寺院」(『吉備地方文化研究』第21号, 2011), 『日本中世政治文化論の射程』(共著, 思文閣出版, 2012), 『環境の日本史 3』(共著, 吉川弘文館, 2013), 『生活と文化の歴史学 2』(共著, 竹林舎, 2013)

土井 通弘 博士（文学）／日本美術史・文化史

2018年3月退職予定

研究領域・主要テーマ

日本文化史・日本美術史の研究。現在は仏教美術の彫刻作品を中心に、素材と技法を主眼にして考察を行っている。

2017年度の授業内容

文化財保護活動特論

わが国の先人たちが歴史の証しを如何に残し、活用してきたかのテーマを設けて解説し、私たちは今後それをどのように受け継いでいくかを受講生と共に考えたい。

主要著書・論文

「滋賀竹田神社・神像二軀の制作年代について」（『文化史学の挑戦』共著，思文閣出版，2005），「蜷江神社・天部形について」（『仏教芸術』第278号，2005），「京都・知恩寺蔵快慶作の新出阿弥陀如来立像について」（『就実表現文化』第2号，2007），「和気町元恩寺蔵 千手観音立像について」（『吉備地方文化研究』第19号，2009），「岡倉天心序説」（『就実表現文化』第3号，2008）

浅利 尚民 博士（文学）／日本文化史・美術史

研究領域・主要テーマ

日本文化史・日本美術史の研究。モノはどのようにして伝えられていくのかをテーマに、主に近世大名文化や調度品の伝来や意義について考察している。

2017年度の授業内容

文化財保護活動特論（2018年度より担当予定）

わが国の先人たちが作りあげた文化財を、後世に伝えていくために行われてきた知識や方法を解説し、今後どのように発展的に継承していくのかを受講生と共に考えたい。

主要著書・論文

「旧岡山藩主池田家の近代における文化財管理の実態について」（『林原美術館紀要・年報』3号，2009年），「池田家歴代肖像画と池田継政」（『林原美術館紀要・年報』4号，2010年），「市浦毅斎述作『芳烈祠堂記』について」（『閑谷学校研究』15号，2011年），「池田光政筆『池田忠雄追悼歌』について」（『岡山地方史研究』123号，2011年），「『黄葉亭記』の原本と写本－岡山藩主池田家旧蔵資料の構造分析を踏まえて－」（『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』641号，2012年）。

吉本 勇 修士（文学）／都市地理学

研究領域・主要テーマ

歴史遺産や産業観光・都市観光などの資源を活用した地域活性化策の実例から、今後の観光形態のあり方を探っていく。

2017年度の授業内容

歴史遺産解説特論Ⅲ・Ⅳ

国内外の歴史遺産を活用した地域振興を実践している都市や地域を新聞や雑誌記事から取り上げて、その現状と課題を考察する。

主要著書・論文

『地域をさぐる』（共著，古今書院，2016），『現代日本の地域研究』（共著，古今書院，2011），『地域の諸相』（共著，古今書院，2010），『都市の環境と生活』（共著，九州大学出版会，1993），「岡山市中心商業地域の変容」（『吉備地方文化研究』第13号，2003），「東京におけるファッション産業地域の研究－マンション・メーカーを事例として－」（『地域研究』第23巻1号，1982），「ジェーンズによる観光客誘致－岡山県・倉敷市児島－」（『就実大学史学論集』第28号，2013）

三田 智子 博士（文学）／日本近世史

研究領域・主要テーマ

近世の地域史・都市史に関する研究。特に近世大坂やその周辺地域を対象に、周縁的な身分の人々も含めた地域の歴史を解明する。

2017年度の授業内容

日本史特論Ⅴ・Ⅵ

日本の近世社会が19世紀に西欧諸国の帝国主義・植民地主義に接し、どのように変容し、近代国家が出来たのか、その得失は何かを考察する。

主要著書・論文

「身分的周縁論とかわた村研究」（『歴史評論』801号，2017），「近世和泉国におけるかわた村と地域社会－泉郡信太地域を事例に－」（『歴史評論』782号，2015），和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史4 信太山地域の歴史と生活』（2015，第2部1章・4章・5章を執筆，同2章は共著），「明治前期における泉州泉郡南王子村と地域社会」（塚田孝・吉田伸之編『身分的周縁と地域社会』，山川出版社，2012），「信太明神社と信太郷－宝暦期の社僧・社家・氏子間争論－」（『市大日本史』15号，2012）

東 洋 史

賈 鍾壽 修士 (文学) / アジアの文化史

研究領域・主要テーマ

アジアの巨石文化を研究対象にして、1988年から特にインドネシアの多くの島で現地調査を行っている。主な研究テーマはメンヒル、ドルメン、石像、石造美術などの巨石遺構で、東南アジアで現地調査を継続している。

2017年度の授業内容

歴史遺産解説特論Ⅰ

歴史遺産を活用して、文化観光産業として育成するための歴史遺産解説員に求められる知識を深める。

歴史遺産解説特論Ⅱ

文化コンテンツ産業としての歴史遺産の活用之道を探る。

主要著書・論文

『韓国伝統文化論』(編著・訳、大学教育出版、2008)、『今も生きている支石墓社会スンバ島』(編著・訳、Book Korea、2010)、『バリ島—Island of Gods』(単著、大学教育出版、2009)、『ジャワの寺院と遺跡』(単著、周留域出版社、2012)、『共生社会を目指して—在日韓人社会と日本』(編著・訳、大学教育出版)、『韓国石像の源流を求めて』(編著・訳、Book Korea、2011)

井上 あえか 修士 (国際学) / 南アジア現代史

研究領域・主要テーマ

インド・パキスタンの独立運動史および独立から現在に至る政治過程について、イスラーム、国家、国民の関係を軸として研究している。

2017年度の授業内容

メディア政治特論Ⅰ・Ⅱ

今日メディアは一国の政治を動かし、戦争を引き起こす力さえもつ。現代史においてメディアが演じてきた役割を理解し、国内外の政治情勢

を批判的に見通す力の獲得をめざす。

主要著書・論文

「パキスタン政治の変化と軍の役割」(酒井啓子編、『途上国における軍・政治権力・市民社会』、晃洋書房、2016)、「カシュミール問題を考える—領土と主権の間」(『アジア太平洋研究』第39号、2014)、「アフガニスタンにおける統合と部族社会」(酒井啓子編、『中等政治学』、有斐閣、2012)、「パキスタン政治の混迷とムシャラフ政権の行方」(『国際問題』第573号、日本国際問題研究所、2008)

渡邊 将智 博士 (文学) / 中国古代史

研究領域・主要テーマ

秦漢時代の政治史・政治制度史を専門とする。現在は漢王朝の皇帝支配の構造について、都城の政治空間や帝位継承の正統性のあり方に注目して研究している。

2017年度の授業内容

東洋史特論Ⅰ・Ⅱ

『漢書』『後漢書』を最新の研究成果や新出の考

古資料を活用して解説し、漢代の社会の諸相について考察する。

主要著書・論文

『後漢政治制度の研究』(早稲田大学出版部、2014)、『全譯後漢書 第十五册列傳(五)』(共編著、汲古書院、2008)、『全譯後漢書 第九册志(七)百官』(共編著、汲古書院、2013)、「後漢安帝の親政と外戚輔政」(『東洋学報』第93巻第4号、2012)、「後漢における側近官の再編」(『東方学』第130輯、2015)

西 洋 史

櫻田 美津夫 修士 (文学) / 西洋史 (初期近代)

研究領域・主要テーマ

オランダ建国史と宗教改革、およびオランダ共和国における宗教的寛容の実態とそれを可能にした諸要因。

2017年度の授業内容

異文化共生特論Ⅰ・Ⅱ

16世紀から21世紀の今日に至るまでのオランダにおける異文化共生の歴史を辿り、その経験を現代に活かす方途を探る。

西洋史演習A・B

西洋史の専門的研究に必要な不可欠な西洋諸語を読み解く能力を養成する。

西洋史演習C・D

修士論文の作成指導を行う。

主要著書・論文

「オランダ共和国における宗教的自由について」(仲手川良雄編著、『ヨーロッパ的自由の歴史』南窓社、1992)、「セファルディムとアシケナジム—17世紀アムステルダム・ユダヤ人社会の成長」(『日蘭学会会誌』第25巻第1号、2000)、「現実を後追いする理念—オランダ共和国の場合」(小倉欣一編『近世ヨーロッパの東と西』、山川出版社、2004)

若見 理江 博士（文学）／哲学・宗教学

研究領域・主要テーマ

ハイデガーの存在の問いをフッサールの現象学との関係から考察し、現象学的方法を宗教学的領域に応用していく可能性を探っている。

2017年度の授業内容

哲学と倫理の諸問題Ⅰ・Ⅱ

受講者の研究テーマ・関心に応じて文献をいくつか選び、精読を通じて哲学および倫理学の諸問題について考える。

主要著書・論文

「志向性と気遣い」(『現象学年報』第32号, 2016), 「カテゴリー的直観と時間性－ハイデガーにおけるフッサールの志向性受容」(『Heidegger-Forum』第9号, 2015), 「ハイデガーの本来性概念再考」(『文明と哲学』第5号, 2013), 「現存在と超越論的主観性－ハイデガーの解釈学的現象学」(『実存思想論集』第20号, 2006)

松崎 博子 博士（図書館情報学）／図書館文化史

研究領域・主要テーマ

図書館文化史, アメリカ図書館史。とくにアメリカ図書館学と図書館員養成教育の関係, およびアメリカ図書館学が日本図書館界へ及ぼした影響について研究を行っている。

2017年度の授業内容

西洋史特論Ⅲ・Ⅵ

19世紀から20世紀までのアメリカにおける図書館の歴史を辿り、時代、社会背景によって変化する公共図書館の機能、役割について考察する。

主要著書・論文

「シェラの図書館学教育思想とその実践」(『図書館文化史研究』Vol.32, 2015), 「公共図書館の成立」(『図書・図書館史』, 日本図書館協会, 2013), 「近代の図書館」(『図書・図書館史』, 日本図書館協会, 2013), 「ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクール『シェラ時代』(1952-70年)のカリキュラムの変化」(『図書館文化史研究』Vol.27, 2010), 「ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史1904-52年」(『図書館文化史研究』Vol.25, 2008), 「数値で見る米国の図書館」(『米国の図書館事情2007』, 国立国会図書館関西館図書館協力課, 2007)

入学試験要項

A 一般選抜

1 出願資格

本学に出願できる者は、次の各項のいずれかに該当する者とする。

- ① 大学を卒業した者又は2018年3月卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により、学位授与機構から学士の学位を授与された者又は2018年3月までに学位を授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2018年3月までに修了見込みの者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者で、2018年4月1日に22歳に達している者

2 提出書類

- ① 研究計画書(2,000字程度)。さらに卒業論文を書いた者は、その写し又はその概要(2,000字程度)
- ② 上記出願資格②の「学士の学位を授与される見込みの者」に該当する者は、在籍する短期大学の専攻科又は高等専門学校専攻科の修了見込証明書及び短期大学長又は高等専門学校長が作成した学位の授与を申請する予定である旨の証明書
- ③ その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

専攻	外国語科目(90分)	専門科目(100分)	口述試験
	9:10~10:40	11:00~12:40	13:30~
人文科学専攻	英語 ※3	以下の1~7の中から、研究計画書に記した研究に最も関係の深い科目を一つ選択し、出願時に届け出ること。 1 日本語学及び日本文学に関するもの 2 英語学及び英米文学に関するもの 3 日本史領域A ※1 (活字版古文書・古記録解説) 4 日本史領域B ※1 (写真版前近代文書解説) 5 東洋史領域A ※2 (漢文・現代中国語史料解説) 6 東洋史領域B ※3 (英語史料解説) 7 西洋史領域 ※3 (英文文献解釈・専門用語解説)	主として研究計画について行う

(注) 受験する専門科目を出願時に届け出ること

- ※1 漢和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※2 漢和辞典・中日辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※3 英和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。

B

社会人 特別選抜

1 出願資格

本学に出願できる者は、次の各項のいずれかに該当し、かつ、出願時に一定の職業に就いている者又は1年以上の期間企業等に勤務した経験のある者とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者

2 提出書類

- ① 志望の動機、目的及び入学後の研究計画を記入した研究計画書(2,000字程度)
- ② その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

専攻	専門科目(100分)	口述試験
	11:00~12:40	13:30~
人文科学専攻	以下の1~7の中から、研究計画書に記した研究に最も関係の深い科目を一つ選択し、出願時に届け出ること。 1 日本語学及び日本文学に関するもの 2 英語学及び英米文学に関するもの 3 日本史領域A ※1 (活字版古文書・古記録解読) 4 日本史領域B ※2 (写真版前近代文書解読) 5 東洋史領域A ※2 (漢文・現代中国語史料解読) 6 東洋史領域B ※3 (英語史料解読) 7 西洋史領域 ※3 (英文文献解釈・専門用語解説)	主として研究計画について行う

(注) 受験する専門科目を出願時に届け出ること

- ※1 漢和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※2 漢和辞典・中日辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※3 英和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。

C

社会人(教員) 特別選抜 (昼夜開講制)

1 出願資格

本学に出願できる者は、次の各項のいずれかに該当し、かつ、出願時に小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園及び大学、短期大学、大学校などの公的教育機関において教諭又は講師として勤務している者とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者

2 提出書類

- ① 志望の動機、目的及び入学後の研究計画を記入した研究計画書(2,000字程度)及び履修計画書
- ② 所属長の承諾書
- ③ その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

口述試験(主として研究計画について行う)

4 その他

社会人(教員)特別選抜で入学した者については、昼・夜間において受講することができるので、開設科目等の詳細については本学教務課に問い合わせること。

教務課(TEL:086-271-8120 E-mail:kyoumu@shujitsu.ac.jp)

また、満40歳以上の方は社会人特待生制度の優遇措置を受けることができる。

社会人特待生制度

学費免除の範囲(詳細は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと)

- ① ライフステージ1(満60歳以上)
 - 検定料・入学金・授業料 全額免除(教育充実費は全額必要)
- ③ ライフステージ2(満40歳以上59歳以下)
 - 検定料・入学金 全額免除
 - 授業料 半額免除(教育充実費は全額必要)

※年齢はいずれの場合も、2018年4月1日現在の満年齢とする。

1 出願資格

本学に出願できる者は、次の各項のいずれかに該当し、かつ、2018年4月1日現在の満年齢が40歳以上の者とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は2018年3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2018年3月までに修了見込みの者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者

2 提出書類

- ① 志望の動機、目的及び入学後の研究計画を記入した研究計画書(2,000字程度)
- ② その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

専攻	外国語科目(90分)	専門科目(100分)	口述試験
	9:10~10:40	11:00~12:40	13:30~
人文科学専攻	英語 ※3	以下の1~7の中から、研究計画書に記した研究に最も関係の深い科目を一つ選択し、出願時に届け出ること。 1 日本語学及び日本文学に関するもの 2 英語学及び英米文学に関するもの 3 日本史領域A ※1 (活字版古文書・古記録解説) 4 日本史領域B ※1 (写真版前近代文書解説) 5 東洋史領域A ※2 (漢文・現代中国語史料解説) 6 東洋史領域B ※3 (英語史料解説) 7 西洋史領域 ※3 (英文文献解釈・専門用語解説)	主として研究計画について行う

(注) 受験する専門科目を出願時に届け出ること

- ※1 漢和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※2 漢和辞典・中日辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。
- ※3 英和辞典を持参し、使用することができる(ただし電子辞書は使用不可)。

社会人特待生制度

学費免除の範囲（詳細は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと）

- ① ライフステージ 1（満 60 歳以上）
 - 検定料・入学金・授業料 全額免除（教育充実費は全額必要）

- ③ ライフステージ 2（満 40 歳以上 59 歳以下）
 - 検定料・入学金 全額免除
 - 授業料 半額免除（教育充実費は全額必要）

※年齢はいずれの場合も、2018 年 4 月 1 日現在の満年齢とする。

E

外国人留学生 特別選抜

1 出願資格

本学に出願できる者は、次の①～④のいずれにも該当する者で、かつ⑤～⑦のいずれかに該当する者とする。

- ① 日本国籍を有しない者
- ② 入学後の学習、研究に支障がない程度の日本語能力を有する者
- ③ 出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格を有する者
- ④ 在学中の身元保証人（留学生の行為一切の責任を負うことができる者）のある者
- ⑤ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又はこれと同等以上の資格を有する者
- ⑥ 教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府または関係機関の認証を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものを受けた外国の大学等（修業年限3年以上）により学士の学位に相当する学位を授与された者で、2018年4月1日で満22歳に達する者
- ⑦ 日本において外国人留学生として日本の大学を卒業した者又はこれと同等以上の資格を有する者

2 提出書類

- ① 志望の動機、目的及び入学後の研究計画を記入した研究計画書（2,000字程度）
- ② 在留カードの写し（表裏両面の写しが必要）
- ③ 身元保証人の保証書（本学指定の用紙）
- ④ 外国人留学生履歴書（本学指定の用紙）
- ⑤ その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

専攻	専門科目(100分)	口述試験
	11:00～12:40	13:30～
人文科学専攻	以下の1～7の中から、研究計画書に記した研究に最も関係の深い科目を一つ選択し、出願時に届け出ること。 1 日本語学及び日本文学に関するもの 2 英語学及び英米文学に関するもの 3 日本史領域A ※1 (活字版古文書・古記録解読) 4 日本史領域B ※2 (写真版前近代文書解読) 5 東洋史領域A ※2 (漢文・現代中国語史料解読) 6 東洋史領域B ※3 (英語史料解読) 7 西洋史領域 ※3 (英文文献解釈・専門用語解説)	主として研究計画について行う

(注) 受験する専門科目を出願時に届け出ること

- ※1 漢和辞典を持参し、使用することができる（ただし電子辞書は使用不可）。
- ※2 漢和辞典・中日辞典を持参し、使用することができる（ただし電子辞書は使用不可）。
- ※3 英和辞典を持参し、使用することができる（ただし電子辞書は使用不可）。

1 出願資格

出願できる者は、次のいずれにも該当する者とする。

- ① 本学人文科学部（旧：文学部）を卒業した者又は2018年3月卒業見込みの者
- ② 本学大学院の研究指導教員が推薦した者

2 提出書類

- ① 研究計画書（2,000字程度）。さらに卒業論文を書いた者は、その写し又はその概要（2,000字程度）
- ② 推薦書
- ③ その他の提出書類は p.18 からの各選抜共通事項を参照のこと

3 試験科目

- ① 書類選考
- ② 口述試験（主として研究計画について行う）

各選抜共通事項

1 各選抜共通提出書類等

入学志願者は、次の書類等を揃え、本学に提出すること。

- ① 入学志願票
- ② 検定料 30,000 円（現金または郵便為替） ※社会人特待生志願者は免除
- ③ 卒業（見込）証明書 ※外国人留学生は、外国における 16 年の課程の最終学校（その国において日本の大学（4 年制）に対応する学校も含む）のもの
- ④ 成績証明書 ※外国人留学生は、外国における 16 年の課程の最終学校（その国において日本の大学（4 年制）に対応する学校も含む）のもの
- ⑤ 宛名シール 1 枚（形式不問、合否通知の郵送先住所と宛名が明記されているもの）
※持参出願の場合は出願時に準備する
- ⑥ 写真（入学志願票貼付）は、正面上半身無帽、背景なし、枠なし、カラー、6 ヶ月以内に撮影したもの
- ⑦ 受験票返送用封筒（定形）
※速達郵送料金 362 円分の切手を貼付の上、住所、氏名を明記して同封すること

2 出願上の注意

1. 出願書類に虚偽の記載事項や記入漏れがある場合、**合格取り消し**となることがある。
2. **出願後の志望専攻・受験科目の変更は一切認めない**。また、一度受理した書類の返還請求にも応じない。
3. 郵送の場合は必ず簡易書留速達とし、「大学院入学願書在中」と朱書きすること。
本学入試課へ直接持参してもよい。受付時間は 9:00 ～ 16:30 とする。（土・日・祝祭日を除く）
4. 出願書類受付後は、出願書類記載事項の変更は一切認めない。
5. 入学検定料を納めたが、出願書類を提出しなかった場合や出願が受理されなかった場合、誤って二重に納めた場合等は返還する。
6. 身体等に障がい有し、受験・就学に際して特別な配慮を必要とする場合は、出願開始前までに、本学入試課に問い合わせること。

3 受験に関する注意

1. 受験者の試験室への入室は、試験開始後 20 分まで認める。ただし、試験時間は当該試験終了時刻までとする。
2. 試験室によっては時計のないところがある。各自で用意すること。ただし、携帯電話などを時計として使用することはできない。
3. 試験室内においては、携帯電話等の電源およびアラームは必ず切っておくこと。
4. 試験室内において、監督者の指示に従わない場合は、不正行為とみなし退出を命じることがある。
5. 昼食が必要な場合は各自で用意すること。

4 選考方法

選考については、筆記試験、口述試験、研究計画書等を総合して判定する。

5 合格発表

<秋期> 2017 年 10 月 3 日（火） / <春期> 2018 年 3 月 3 日（土）

6 入学手続

- ① 合格者は、入学手続期間内に入学時における学納金を銀行に振り込み（または本学会計・施設課にて支払い）、入学手続書類を提出すること。期限内に手続をしない場合は、本学に入学の意志がないものと判断し、入学許可を取り消す。

② 入学手続期間

<秋期> 一次手続 2017年10月20日(金) <消印有効>

二次手続 2018年1月12日(金) <消印有効>

<春期> 一括手続 2018年3月13日(火) <消印有効>

7 2018年度学納金

<就実大学 出身者>

	入学手続時	10月
	円	円
入学金	免除	—
授業料	200,000	200,000
教育充実費	50,000	50,000
計	250,000	250,000
年額合計	500,000	

<他大学 出身者>

	入学手続時	10月
	円	円
入学金	135,000	—
授業料	200,000	200,000
教育充実費	50,000	50,000
計	385,000	250,000
年額合計	635,000	

★特待生の学納金

<ライフステージ1, 同窓特待生>

	入学手続時	10月
	円	円
入学金	免除	—
授業料	免除	免除
教育充実費	50,000	50,000
計	50,000	50,000
年額合計	100,000	

<ライフステージ2>

	入学手続時	10月
	円	円
入学金	免除	—
授業料	100,000	100,000
教育充実費	50,000	50,000
計	150,000	150,000
年額合計	300,000	

※上記学納金以外に、後援会費、諸費、学会費を入学手続時に徴収する。

* 内の金額は入学手続に必要な合計金額。

外国人留学生は、学費等について減免制度がある。

8 個人情報の取り扱いについて

出願及び入学手続に際して得た個人情報は入学試験の実施、合格発表、入学手続、入学案内統計資料の調査・作成及び本学での学生生活関連業務に必要とされる範囲で収集し利用する。

9 入学辞退・納付金返還

合格者で学納金等納入後、入学を辞退する場合は、手続期限内に「入学辞退届」を提出することにより入学金以外の学納金（諸会費等を含む）を返還する。

① 入学辞退届

A4用紙あるいは便箋等に「入学辞退届」と書き、下記の事項を記入のうえ、封筒表面に「辞退届」と朱書きして「簡易書留」で本学入試課宛に郵送すること。

①入学予定専攻名 ②受験番号 ③受験者氏名(捺印) ④保護者氏名(捺印)、住所、連絡先(電話番号) ⑤入学辞退理由(具体的に) ⑥届出年月日

⑦返還金振込先

・返還金振込希望銀行名、本支店名、預金種別(普通か当座)、口座番号、口座名義(受験者本人または保護者の口座名義とし、必ずフリガナを付すこと。)

以上を記入のうえ、下段に「前期分授業料等振込証票A」(銀行収納印のあるもの)を複写したものと及び該当通帳の見返し面(口座名義等記載されているページ)を複写したものを貼付する。

② 手続期限

2018年3月31日(土) 12:00(必着)

以降は入学したものとして返還しない。

③ 返還期日

納付金の返還は、4月中旬以降に指定された金融機関へ振り込む予定。振込手数料は、辞退者負担とする。

また、既に提出済みの入学手続書類については、返還の申し出がない限り納付金の返還後に本学が責任を持って処分する。

なお、入学辞退届提出後の入学辞退取り消しは一切できない。提出済みの入学辞退届は返還しない。

受験番号

就実大学大学院 人文科学研究科
 人文科学専攻 入学試験(秋期・春期) ※どちらかを○で囲むこと
入学試験志願票

フリガナ		男・女
志願者名 生年月日	年 月 日生	
現住所	〒 電話 () -	
連絡先	〒 電話 () -	

写 真
1. 正面上半身,無帽,背景なし,粹なし,カラー。
2. 最近6カ月以内のもの。
3. 写真裏面に氏名を記入する。
4. タテ4cm×ヨコ3cm

*該当するものを○で囲む。

受験区分	一般・社会人・社会人(教員)・社会人特待生・外国人留学生・学内推薦
------	-----------------------------------

*該当するものを○で囲む。

研究領域名
以下の1～7の中から, 研究計画書に記した研究に最も関係の深い科目一つを選択し, ○で囲むこと。
1. 日本語学及び日本文学に関するもの
2. 英語学及び英米文学に関するもの
3. 日本史領域A(活字版古文書・古記録解読)
4. 日本史領域B(写真版前近代文書解読)
5. 東洋史領域A(漢文・現代中国語史料解読)
6. 東洋史領域B(英語史料解読)
7. 西洋史領域 (英文文献解釈・専門用語解説)

学 歴	年 月 日	高等学校	科 卒業
	年 月 日	大学	学部 学科 入学
	年 月 日	大学	学部 学科 卒業 卒業見込
	年 月 日		
職 歴	(自) 年 月 日		
	(至) 年 月 日		
	(自) 年 月 日		
	(至) 年 月 日		

キ
リ
ト
リ
線

2018年度

就実大学大学院 人文科学研究科

人文科学専攻 入学試験

(秋期・春期) ※どちらかを○で囲むこと

受験票

(当日持参のこと)

受験番号	
志願者名	フリガナ

※受験番号・本学収納印のないものは無効

人文科学専攻	
試験区分(○をつける)	
A : 一般選抜	D : 社会人特待生選抜
B : 社会人特別選抜	E : 外国人留学生特別選抜
C : 社会人(教員)特別選抜	F : 学内推薦

入学検定料 収納印
¥ 30,000

----- 切り離さないこと -----

2018年度

就実大学大学院 人文科学研究科

人文科学専攻 入学試験

入学検定料 受領書(志願者保存)

¥ 30,000

上記のとおり領収しました

志願専攻	人文科学専攻
フリガナ	
志願者名	

入学検定料 収納印

----- 切り離さないこと -----

2018年度

就実大学大学院 人文科学研究科

人文科学専攻 入学試験

入学検定料 納付書(大学保存)

¥ 30,000

志願専攻	人文科学専攻
フリガナ	
志願者名	

入学検定料 収納印

キ
リ
ト
リ
線

2018年度

社会人特待生用

就実大学大学院 人文科学研究科

人文科学専攻入学試験

(秋期・春期) ※どちらかを○で囲むこと

受験票

(当日持参のこと)

受験番号	
志願者名	フリガナ

※受験番号のないものは無効

人文科学専攻	
試験区分(○をつける)	
A: 一般選抜	D: 社会人特待生選抜
B: 社会人特別選抜	E: 外国人留学生特別選抜
C: 社会人(教員)特別選抜	F: 学内推薦

切り離さないこと

2018年度

社会人特待生用

就実大学大学院 人文科学研究科

人文科学専攻 入学試験

入学検定料(免除) 確認書(大学保存)

志願専攻	人文科学専攻
フリガナ	
志願者名	

2018年度

受験番号

年 月 日

就実大学大学院 人文科学研究科
人文科学専攻 入学試験（秋期・春期）※どちらかを○で囲むこと

推 薦 書

就実大学学長 様

就実大学大学院 人文科学研究科 人文科学専攻
研究指導教員 ㊞

大学院学内推薦入学試験の出願資格を満たしている志願者として、下記の学生を推薦いたします。

記

大学所属学科	志願者名
推薦する理由	
資(史)料読解力について の所見 (国語(古文漢文含 む)・英語等)	

受験番号	
------	--

就実大学大学院 人文科学研究科 人文科学専攻
 外国人留学生特別選抜入学試験（秋期・春期）※どちらかを○で囲むこと

外国人留学生保証書

年 月 日

就実大学学長 様

氏 名

生年月日 年 月 日生

国 籍

現 住 所

上記留学生の、貴学在学中における行為一切と経費について保証します。また、この保証書に記載されている事項に変更が生じた場合は、速やかにお届け致します。

<保証人>

氏 名	Ⓜ	生年月日	年 月 日生
現 住 所	電話：		
勤 務 先	電話：		
所 在 地			
留学生との関係			

受験番号

就実大学大学院 人文科学研究科 人文科学専攻
外国人留学生特別選抜入学試験（秋期・春期）

※どちらかを○で囲むこと

外国人留学生履歴書

写 真

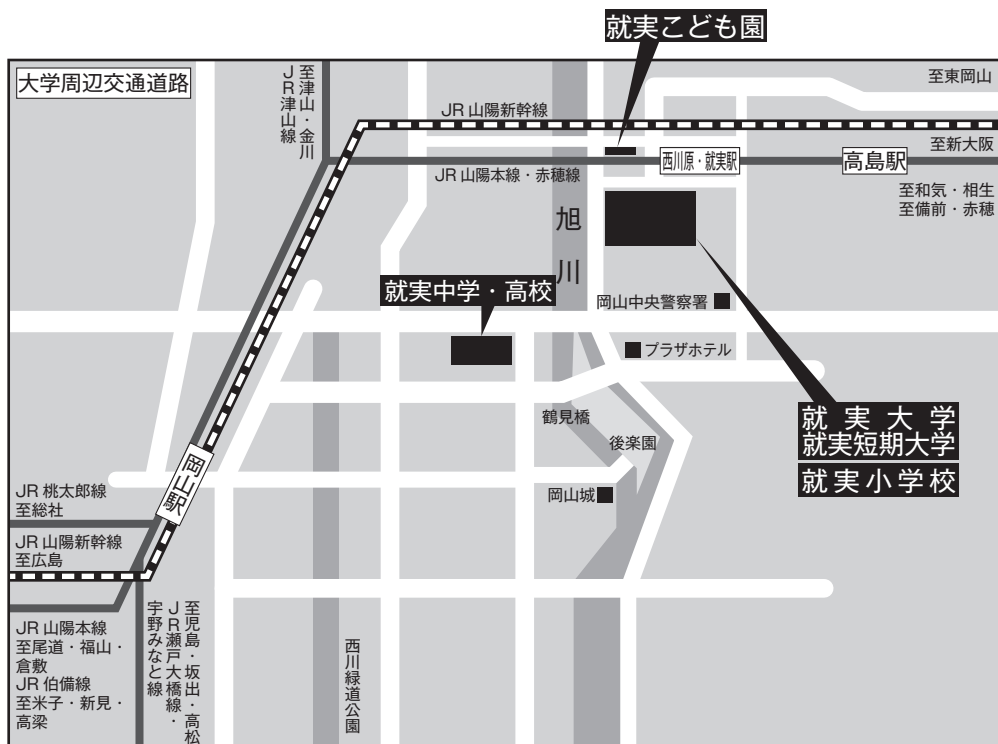
1. 正面上半身、無帽、背景なし、枠なし、カラー。
2. 最近6カ月以内のもの。
3. 写真裏面に氏名を記入する。
4. タテ4cm×ヨコ3cm

学 歴（小学校から最終学校まで年代順に詳しく記入すること）

学 校 名 所 在 地	修 業 年 限	入 学 年 月 日	卒 業 (修 業) 年 月 日
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		
	年 カ月		

職 歴

勤 務 先 名	所 在 地	勤 務 期 間



交通の便

■ JR山陽本線・赤穂線「西川原・就実」駅
 (岡山駅から1駅目) 下車 徒歩1分

入学試験についてのお問い合わせ・書類の送付先

就実大学 入試課

〒703-8516 岡山市中区西川原一丁目6番1号

☎ (086) 271-8118 (直) FAX (086) 271-8260 (直)

<http://www.shujitsu.ac.jp/> E-mail: nyushi@shujitsu.ac.jp